

「子供たちの未来づくり」⑧

失敗を恐れない

— まちがうとっていいんだ



「失敗を極度に恐れる」子供たちのことが、このところずっと気になっていても頭から離れなかった。先日、ふとしたことで「教室はまちがうところだ」という絵本があることを知り、すぐに買ってくりかえし読んでみた。

表紙の絵には、にこにこ笑顔の先生の胸や肩に居並ぶたくさんの子供たちが描かれている。

ページをめくると、

「教室はまちがうところだ」

と、いきなりはじまり、

「まちがうことを恐れちゃいけない」

「まちがったものを笑っちゃいけない」

「まちがうとってなにかおかしい、あたりまえじゃないか」

とつづく。そして、

「安心して手をあげる」

「安心してまちがえや」

と子供たちへのエールがつづられる。

この本にはさまれていたブックレットをみて驚いた。そこには、ある小学校の先生の寄稿文が掲載されていた。その先生は、何とこの詩を1年間、教室で子供たちと一緒に声に出して読みつづけたのだという。



詩集をみんな胸の位置にそろえて持ち、大きな声で全員で読む。気に入ったところに入ったらところは、分担して読み分ける。

子供たちは、ほんとうに読みたいと思う部分を自分で選ぶ。読みたい箇所が重なれば、話し合って決める。

最初、自信なげだった読み声は、1年の終わりには詩の文章が自分のことばとなり、堂々とした読み声になっていった。算数の時間に「教室はまちがうところや」と、つぶやきながら手を上げる子もいた。

子供たちはきつとこの詩の言葉を、自分のものにしてしまったのだろう。そして、その言葉通りに自分から行動できるようになったのだろう。

なるほど！ こういう教え方もあるのかと、目からウロコが落ちる思いがした。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲